

“子供にとって幼稚園はどんなところでしよう”

水 原 泰 介

幼稚園の生活によって、色々のよい習慣や性質が形成されると云われています。ところが、その反面、幼稚園に通わせると、こまっちゃんとした生意気な子供、神経質な子供、気の散り易い飽きっぽい子供になり易いと云うような心配をする人もあります。このように幼稚園生活が子供に与える影響について、利点や欠点がとりあげられて色々なことが云われていますが、これらの何れの側の主張も、単なる主観的判断に基いてなされているに過ぎない場合が少なくないようです。この問題については、もっと沢山の客観的な精確な研究が進められなければ、未だどうとも結論の下しようなない点が数多く残っているようです。

このような問題を根本的に解明し、幼稚園教育に伴い易い欠点を防ぎ、幼稚園教育の長所を益々伸してゆくためには、我々は『子供達にとって、幼稚園はどんなところか』ということをはっきりと理解する必要があります。子供達は幼稚園に来て、環境をどのように認識し、環境からどのような

影響を受け、どのような行動をとり、どのような心理状態を経験しているのでしょうか。例えば、満足や失意の経験はどの程度に起っているか、どのような人、もの、場面が満足や失意をひき起しているか、先生や他の子供のその子供に対する抑制、強制援助などがどの程度に起っているか、その子供には周囲の事情がどの程度にのみこめているか、その子供の行動はどの能率的、効果的、創造的であるか——と云うようなことが我々に十分に理解されなければ、幼稚園生活におけるどのような点が子供達の望ましい特徴の発達を助長し、どのような点が望ましくない傾向を強めているかについて正確な判断を下すことは困難です。

以上のような点を明かにするためには、網羅的で而かも精確な行動観察が必要なのですが、その話に入る前にここでちょっとこの問題とは別の方面に於て客観的な行動観察による分析的な研究が大きな成果をあげている例をお話ししましょう。或る事務能率の研究者が或る大会社の事務員達の勤

務時間中の行動を逐一記録してそれを分析してみたところ、彼等の事務のとり方に非常に無駄が多いことを見出しました。この事実を会社側に報告して事務のとり方の改善をさせたところ、事務能率は一挙に二倍以上に高まりました。この会社には何十年もの間、実際に事務をとり、且つ事務のとり方の指導や監督を行っている有能な専門家が何人もいるのに、このような事実が何故それまではわからなかったのでしょうか。それは何十年もにわたる長い間の経験に其いての判断も、客観的な精確な行動観察によって得られたものに較べると、可成り貧弱な、粗っぽいものにとどまり、事務のとり方の現状の精確な把握が行なわれていなかったからです。ただ普通の仕方で見ているのでは、たとえ、よく気をつけて見ているも、それから得られるのは不十分な、偏ったものにとどまる場合が少なくなく、そこから新たに問題を見出したり、事態に対する深い理解に到達することは比較的稀です。

この研究者が事務員の勤務中に於けるあらゆる行動を細かく分析することによって事務活動の中に含まれている全ての要素が明るみに出されました。そして、これらの要素の中のどれが事務能率を促進し、どれがそれを阻んでいるのかが明になったのです。私達もこの研究者がやったように、幼稚園に於て子供達がおかれている環境条件やそこで行動を客観的な観察法を用いて細かな点まで詳しく分析したら、幼稚園生活が子供達にとってどのような意味をもっているかが、現在わかっているよりもつと細かな点まではっきりとして来るのではないでしょうか。

このような観察法としてどのようなものが適當であるかについて、ここで詳細に述べることは紙面の都合で割愛しなければなりません。これに近い観察法の一例を極く簡単に紹介してみようと思います。これは私の研究室の井田薫子さんが行っている研究です。井田さんは約二ヶ月間、この観察法の練習を重ね、正確に記録がとれるよ

うになってから、ここに述べる一人の三才児（男子）の行動観察を行いました。この観察の対象となった子供は、身体、知能、社会的成熟度、家庭環境等々の点から見て極く普通の子供を選びました。従つて、この子供の観察結果から、この子供以外の普通の子供のことについても或る程度までは類推が出来るのではないかと思います。

この研究では、その子供が幼稚園に来て（午前九時十五分頃）から帰る（午前十一時三十分頃）までの間に起つたその子供のあらゆる行動と、それらの行動に関係のある周囲の状況を出来るだけ詳しく記録しました。観察結果の分析にあたっては、或る行動が開始されてそれが終るまで（或は他の行動に移るまで）を一単位の行動として扱います。例えば——太郎さんは積木のところへ行つて、楽しそうに歌をうたいながらおうちを作る。そこへ次郎さんが来て行こうよとさそうと、積木をそのままにして直ぐに二人で一緒に外へ走つてゆく——と云つたような場合には、太郎さんが積木の

ところへ行つてから、(次郎さんから声をかけられたために)積木遊びを止めるまでが、一単位の行動になります。この三才児の場合には、幼稚園についてから帰るまでの間に337単位の行動が見られました。この337単位の一つ一つについて次のような点でどのようになっているかを評価します。

(1) 精力的——その行動が精力的に活潑に行われたか。

(2) 創造的——その行動に創造的な工夫がなされていたか。

(3) 要求水準——その行動は、或る定まった目標が立てられていて、その達成をめざしたものであったか。

(4) 満足感——その行動に満足感がみられたか。

(5) 欲求の強さ——その行動は強い欲求をもってなされていたか。

(6) 環境の理解——自分がどのような立場におかれ、他の人々は、自分にどんなことを期待しているかをはっきり理解しているような振舞い方であったか。

(7) 落ちつかなさ——その行動は落ちつきのないものであったか。

(8) 欲求不満——自分がやりたいと目ざしていることが、何かの障碍にあって実現を阻まれている状態であったか。(自分はやりたくないのに、無理にやらされたりして、それから逃れられない状態であったか。)

(9) 葛藤——やり度いことが二つ以上あってどちらによりかと迷う葛藤状態やその他の型の葛藤状態が見られたか。

上述の項目についての評価の結果、夫々の特徴が現れていると認められた単位行動の数は次の表のようになりました。例えばその行動が精力的に、活潑に行われていると認められたのは337単位の中の147単位です。そしてこれは43.3%にあたります。

ここでは紙面の都合で、九項目の評価についてだけ述べましたが実際にはもっと沢山の項目について評価してをります。これ等の沢山の項目についての結果を総合的に検討することによって、幼稚園に於ける子

	評価項目	単位数	%
1	精力的	147	43.3
2	創造的	29	8.6
3	要求水準	105	31.1
4	満足感	144	42.7
5	欲求の強さ	105	31.9
6	環境の強理解	125	37.0
7	落ちつかなさ	83	24.6
8	欲求不満	107	31.7
9	葛藤	111	32.9

供の世界が、可成り細かな点まで把握されそうです。ここにあげた例の子供の場合でも、これまでには気づかれなかつたような事実が幾つか見出されています。例えば、この子供の幼稚園生活の中に欲求不満や葛藤の状態がこれ程多く含まれていたことなどは予想外の事実でした。

私の研究室では、もつと多くの子供について同様の研究が続けられておりますから、この幼稚園が子供達にとつてどのような世界であるかがもつとよくわかる日が来るでしょう。

幼稚園が異ればあるいは受持ちの先生が異れば、そこに於ける子供たちの世界も異なつた特徴を示すだろうと予想されます。

どの幼稚園が優秀で、どの幼稚園が劣悪であるかと言ふことに關しても、夫々の幼稚園に於ける子供達の世界が、どのような特徴をもっているかが明かになれば、今までよりも、もっと確かな、実質的根拠の上に立つて判断を下すことが出来るでしょう。

また、家庭内や家庭の周辺に於ける子供達の世界と幼稚園における子供達の世界とを比較することによって、幼稚園生活のもつている意義がより一層明確になるでしょう。

これ等は、何れもまだ明かにされていない問題であつて、その解明は今後の研究にまたなければなりません。従つて、本稿に於ては、幼稚園に於ける子供の世界がどのようなものであるかを客観的、科学的な研究方法によつて明かにすることが、幼稚園教育の現状把握や改善のために重要な意義をもっていることを指摘し、そのような研

究法の一例として近頃始められた一つの研究を紹介するとどめました。

(お茶の水大助教授)

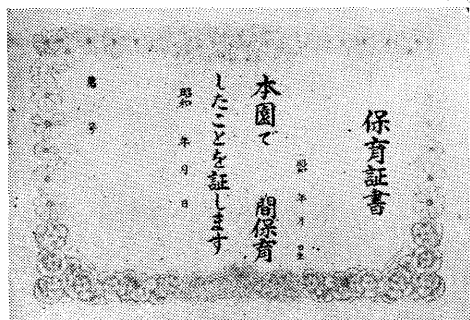
昭和30年度フレーザー館新学期用品



☆保育証書 大(A・B)小

☆賞状用紙

保育証書は大のA・Bと小の3種あり、大はB4判で輪郭鳳凰、菊撫子の模様で金粉刷。小と賞状用紙はB5判、特に紙質を吟味、賞状用紙はいろいろの賞状に使用できるよう、美しい輪郭のみ印刷いたしました。



☆園児募集ポスター

A・B・Cの3種あり、

A2判多色刷、黒崎、林

相沢先生の美しく楽しい

図柄です。

保育証書

本園で 園保育

したことを証します

昭和 年 月 日